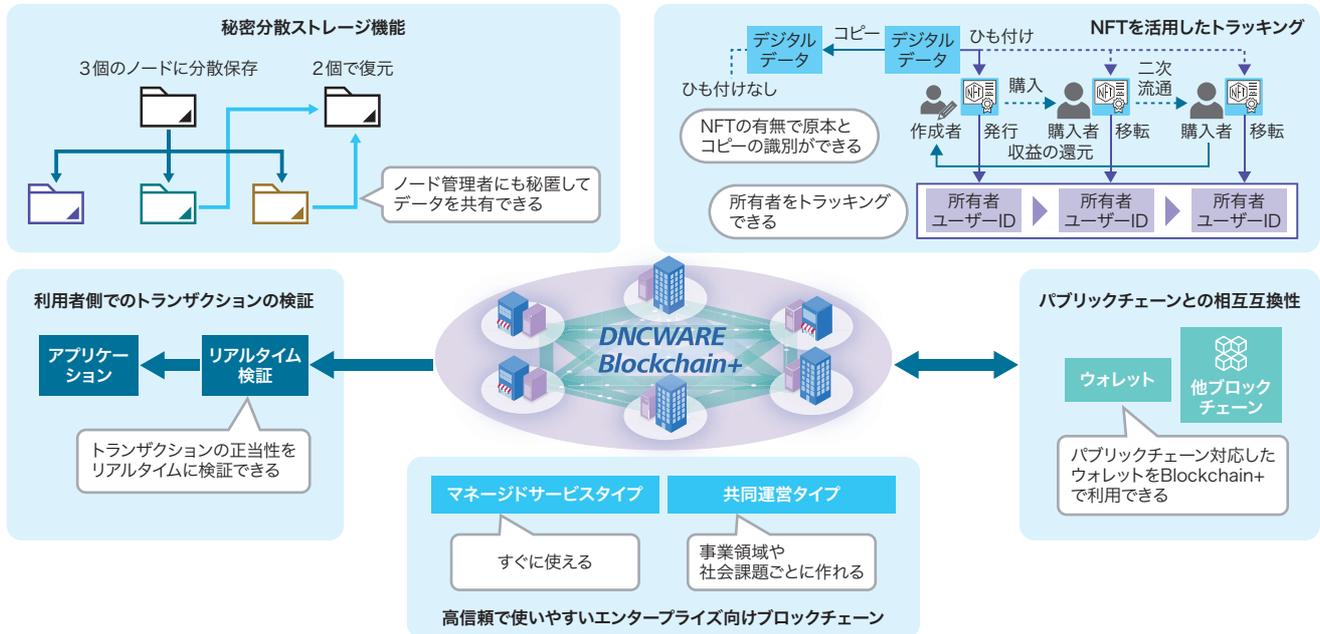


企業間のデータ共有・流通を実現する DNCWARE Blockchain+ V3



ID: 識別情報

DNCWARE Blockchain+ V3の特長
DNCWARE Blockchain+ V3 features

DNCWARE Blockchain+ (以下、Blockchain+と略記)は、当社のクラスター技術を基に開発されたエンタープライズ向けブロックチェーンである。今回、Blockchain+ V3において、企業間で信頼性の高いデータの共有・流通を可能にする新たな分散型データ流通基盤を実現した。

現代社会では、企業が産業の垣根を越えて連携し、社会価値を共創する動きが加速している。その中心にあるのが“データ”であり、企業が保有する多様なデータを組み合わせることで、単独では解決困難な課題にも取り組める。一方、企業間のデータ共有・流通は、データの信頼性の確保が大きな課題となっている。

従来の仕組みは、特定の管理主体に依存した“誰かを信頼する”前提で運用されており、管理主体の判断や運営方針に左右されるため、データの検証性や運用の継続性に限界があった。この課題を解決するには、特定の管理主体に依存しない分散型の仕組みが不可欠である。Blockchain+ V3では、分散型の仕組みをより強固にするため、以下の三つの機能を強化した。

- (1) リアルタイム検証によるデータの信頼性向上 ブロックチェーン技術により、データの改ざん耐性と真正性を確保。更に、利用者がトランザクションの正当性をリアルタイムに検証できる機能を追加し、信頼性を向上
 - (2) 秘密分散による安全なデータ保管 共有データを秘密分散技術により複数ノードに秘匿化して分散保管。ノード管理者にも内容を秘匿することで、機密性を確保した保管を実現
 - (3) NFTと相互互換性によるデータの価値流通 NFT (Non-Fungible Token) の活用で、データの所有者や流通履歴が追跡可能。また、パブリックチェーンとの相互互換性の機能を追加し、データの価値流通を促進
- これらの機能強化により、“ブロックチェーンによるデータ流通と価値創出”というコンセプトを、より実用的かつ拡張性のある形で具現化した。行政DX (デジタルトランスフォーメーション) や、物流と決済の連携、カーボンプレジット、電池の二次利用などにおいて、企業間の信頼性の高いデータ共有と価値創出を支える中核技術として期待される。

東芝デジタルソリューションズ (株)